大阪・関西万博の交通インフラ ～誇って良いのでは？～

田中利光
論説委員
阪神国際港湾株式会社
代表取締役副社長

2025 年 10 月 13 日に 184 日間の会期を終え、大阪・関西万博が終了しました。終わってみると一般来場者数は想定の 2,820 万人には届かなかったものの、約 2,560 万人で運営収支は黒字を計上していますし、「万博ロス」という言葉ができる程、評判も良かったようです。

さて、筆者はこの万博を支えた交通インフラ整備に関わったことから、その視点から万博を検証してみたいと思います。また、立地条件や運営主体、時代背景が異なるため単純な比較はできませんが、大規模集客施設における交通マネジメントという共通の観点から、同じ大阪ベイエリアにあり万博会場からも近く、世界有数の集客施設であるユニバーサル・スタジオ・ジャパン（USJ）の開業時の交通インフラも合わせて紹介します。

まず USJ です。環境影響評価では、年間来場者 800 万人、平日 19,200 人/日、休日 32,000 人/日の来場者を想定し、分担率は鉄道利用は 48%、自動車やバスを利用する道路利用は 45%、海上交通や自転車などそれ以外は 7%でした。また、開業時に一時的に来場者が集中することを考慮し、「ユニバーサルシティ道路交通対策連絡協議会」を立ち上げ、特に道路交通への集中を防ぐべく、JR の直通列車の運行や増便など鉄道利用率の向上を図るとともに、一般道路の新設・拡幅、高速道路オフランプや暫定オンランプ整備、暫定駐車場整備など様々な対策を講じ、来場者は 52,000 人/日、道路交通分担率を 68%まで許容できる対策を実施しました。

そして開業後の結果としては、想定を約 4 割上回る約 1,200 万人の年間来場者がありましたが、開業直後の春休みやゴールデンウィーク、夏休みなどにも USJ 周辺の一般道路や高速道路の深刻な渋滞は発生せず、来場者の快適なアクセスは確保されました。また、分担率は鉄道利用 50%、道路利用 47%、それ以外 3%であり、ほぼ環境アセスの想定と変わらない結果でした。

次に今回の万博です。交通インフラとしては、大阪メトロ中央線の延伸、幹線道路及び橋梁拡幅、交差点の立体交差化などを実施しました。一方、日本国際博覧会協会（博覧会協会）では、想定来場者数を 2,820 万人とし、当初、計画来場者は 28.5 万人/日と想定しましたが、会場である夢洲は橋梁とトンネルの 2 ルートのアクセスしかなく、また、万博とともに稼働中のコンテナヤード等があるため、特に入場時の道路上の交通処理を懸念し、チケットコントロールで 22.7 万人/日に入場制限することとし、分担率は、鉄道利用は 13.3 万人（59%）、自家用車等は 6.8 万人（30%）、駅シャトルバス等は 2.6 万人（11%）、あわせて道路利用は 9.4 万人（41%）としました。また、夢洲地区内には自家用車の駐車場を設けず、舞洲など離れた場所に整備し、バスに乗り換えて夢洲にアクセスするパークアンドライド（P&R）手法を採用しました。

結果はどうだったのでしょうか。博覧会協会の発表等から検証しますと、ゴールデンウィーク期間には入場者が 10.9 万人/日に対して、鉄道利用者は 8.2 万人で 74.2%の方々が鉄道を利用しています。道路上は全く渋滞もなかったのですが、一方、夢洲駅に直結する東ゲートに来場者が集中し、長時間待たないと入れないといった問題が生じました。その後、博覧会協会では P&R 駐車場の割引料金導入等利便性向上対策（5 月～）、夢洲駅から西ゲートへの徒歩ルート開設（6 月～）、東ゲートから西ゲートに移動できる外周バス活用（7 月～）など入場ゲートの分散対策を講じました。

そして最終的な結果としては、会期中の一般来場者は約 2,560 万人、関係者を含む総来場者は約 2,900 万人で、平均来場者は 15.8 万人/日でした。そのうち鉄道利用者は 11.6 万人/日で 73.5%です。なお、道路利用は、万博とその他交通を含めある道路断面で約 12,000pcu（乗用車換算台数）/日を想定していましたが、結果として約 10,500pcu/日で道路上の渋滞はほとんど発生しませんでした。この理由は複数あります。港湾物流であるコンテナ車が想定より少なかったこともありますが、一般来場者をチケットコントロールも含め制限したこと、そして一番大きな要因としては、鉄道利用が想定の 59%から約 74%と増加したことです。勿論、ゲート前での混雑は来場者にとっては辛いものだったかもしれませんが、交通アクセスの観点からは、自動車交通から公共交通へのシフトが功を奏し、この万博は成功を収めたといえますし、鉄道事業者を含め交通インフラに関わった多くの関係者の努力、成果を誇らしく思っているところです。